

第2回  
島根県国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会  
検討懇話会次第

令和2年2月4日（火）13時～15時  
サンラポーむらくも 瑞雲の間

主催者挨拶

議事

1. 第1回検討懇話会の概要について
2. 提言書の骨子（素案）について
3. 意見交換

事務連絡 次回（最終）開催について  
3月26日（木）13:00～15:00 ホテル白鳥

第2回 島根県国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会 検討懇話会 出席者名簿

(敬称略)

No.	区分	所 属	役 職	氏 名	備 考
1	行 政	島根県市長会	会長	松浦 正敬	
2		島根県町村会	会長	下森 博之	
3	スポーツ	公益財団法人 島根県体育協会	専務理事	安井 克久	
4		公益財団法人 島根県障害者スポーツ協会	理事長	福井 幸夫	
5		島根県スポーツ推進審議会	会長	岸本 強	
6	教 育	島根県高等学校体育連盟	会長	津森 敬次	
7		島根県中学校体育連盟	会長	古藤 浩夫	(代理) 理事長 柏木 裕至
8		島根県特別支援学校長会	会長	浅野 博行	
9		島根県私立中学高等学校連盟	会長	大多和 聡宏	
10	経 済	島根県商工会議所連合会	幹事長	松浦 俊彦	(代理) 事務局長 高尾 健司
11		島根県商工会連合会	会長	石飛 善和	(代理) 専務理事 葛西 章
12		一般社団法人 島根県経営者協会	会長	久保田 一郎	
13		公益財団法人 島根県観光連盟	会長	皆美 佳邦	(代理) 専務理事 小室 僚
14	メディア	株式会社 山陰中央新報社 (公益財団法人 島根県体育協会)	代表取締役社長 (副会長)	松尾 倫男	
15		山陰中央テレビジョン放送株式会社 (公益財団法人 島根県体育協会) (島根県商工会議所連合会)	代表取締役社長 (理事長) (会頭)	田部 長右衛門	
16	有 識 者	島根県連合婦人会	会長	野々内 さとみ	
17		日本青年会議所中国地区島根ブロック協議会	2020年度会長	松田 岳士	
18		島根県立大学短期大学部	教授	梶谷 朱美	
19		東部島根医療福祉センター	院長	伊達 伸也	
20		株式会社 ナカサ 安来市スポーツ推進員	会長	仲佐 久子	

## 1. 開催の成果

県をあげて取り組むまたとないチャンス  
オール島根での取組を通じた“島根創生の実現”

結び

「島根創生」の実現のためには、「全市町村を舞台」に、「全県民の協働」を通じ、「オール島根」で開催県にふさわしい成績「総合優勝」を目指すことが必要

## 2. 開催の意義

### （1）県民に夢や希望、感動を与え、成功体験の共有を通じて郷土愛や誇りを醸成

- 県民がそれぞれの立場で力を発揮し、大会に向けてオール島根で取り組む共通の体験や達成感、県民に夢や希望、感動を与え、郷土愛や誇りの醸成に寄与



### （2）スポーツを通じた、健康で心豊かな島根暮らしの実現

- だれもがスポーツに親しみ、健康づくりや心の豊かさを育むまたとない機会



### （3）将来にわたる持続可能な競技力の向上

- 中長期的な視点による、選手の育成・確保や指導体制・指導環境を整備
- 「する」「みる」「ささえる」それぞれの役割を果たす将来構想の策定
- スポーツに秀でた人材の発掘・育成、県外への人材流失の防止
- スポーツ医科学、栄養学などサポート体制の充実



### （4）島根の魅力発信を通じた観光振興等、裾野の広い経済効果の創出

- 全国からの参加者を「おもてなしの心」で受け入れ
- 全国に島根の魅力を県民皆が情報発信する絶好の機会
- 大会の開催と連携した地域経済の活性化に向けた取り組み



### （5）各市町村で実施される競技を活かしたまちづくり、交流人口の拡大

- 大会開催後も地域のレガシーとして地域振興に寄与

## 3. 島根における大会のあり方

### （1）県民総参加によるおもてなし

- 島根ファンづくりのため、あたたかい県民性の発揮
- 島根の持つ豊かな自然、文化、歴史などに対する理解の促進
- 新たな交流人口・関係人口の創出

### （2）スポーツに親しむ環境づくり

- 県民がスポーツを身近に感じ、スポーツに取り組む機運の醸成
- 各地域でスポーツに触れられる環境の整備

### （3）競技スポーツの推進によるまちづくり

- 競技スポーツの推進に向けた選手や指導者の育成
- 地域全体で選手を育てる体制づくり
- 国スポ開催後も見据え、戦略的に選手・指導者を育成する体制及び環境の整備
- 地域や関係団体と連携し、地域に根付くスポーツ文化の普及・定着

### （4）コンパクトで環境に配慮した大会運営

- 将来を見据えたコンパクトでスマートな大会運営
- 大会終了後の利活用や環境負荷を考慮した効果的、効率的な施設整備
- 協働による効果的、効率的な大会運営の実現
- 厳しい財政状況に対応した収入確保の工夫

### （5）大会と連携した観光振興・産業振興

- 全国に島根の魅力を効果的に情報発信し、観光誘客や交流人口を拡大
- 大会を産業振興の好機として活用

### （6）すべての人がともに支え合う大会

- 障がい者が主体的に大会に参加する環境づくり
- スポーツを通じた人と人の絆の深化
- だれもがスポーツに親しむことの出来る施設等環境整備の推進

## 4. 取り組みの方向性

### （1）県民意識の高揚と総参加の仕組みづくり

- 学校教育やメディアの協力等による、開催意義の効果的な周知及び機運の醸成
- 単なるスポーツイベントではなく、県民自らが島根の魅力を再発見する機会の提供
- あたたかいおもてなしの心をオール島根で推進

### （2）ライフステージに応じた生涯スポーツの普及

- スポーツに親しむ環境づくりの推進
- いつでも、どこでも、だれもが手軽にスポーツに触れる機会の増大

### （3）選手・指導者の育成・確保とサポート体制の充実

- トップレベルをめざすヒト（選手・指導者）、モノ（施設・競技用具）のレベルアップ
- 選手・指導者の受け皿づくり
- 中長期的な視点による、選手・指導者・競技役員・医療従事者等、関係者の確保・育成
- スポーツ普及に向けた地域での積極的な取り組みの促進、リーダー育成

### （4）協働を通じた相乗効果による効率化の実現

- 既存施設の活用や仮設・他県施設利用等によるコスト低減の実現
- リサイクルの徹底など環境負荷や維持費の低減及び長期的な視点に立った施設整備の実施
- 行政、関係団体、企業、ボランティアなど官民が一体となった大会運営
- ネーミングライツやスポンサー募集など、民間活力を活用した資金調達方法の導入

### （5）大会を活用した誘客や地域ビジネスの拡大

- メディア等の活用により、準備段階から島根の魅力を情報発信
- 経済団体や金融機関等と連携し、創意工夫による経済波及効果の創出

### （6）障がい者を社会で支える環境づくり

- 障がい者スポーツの普及、競技力の向上
- 障がい者に対する県民理解を深め、共生社会の実現に向けた取り組み
- バリアフリー化の推進